

2016年参院選・論戦ニュース

日本共産党国会議員団中国ブロック事務所

2016年6月22日 No.8

公明党山口代表 野党共闘を「混乱」と攻撃 —野党共闘と共産党への期待に焦り

6月19日付公明新聞で、公明党の山口那津男代表が野党共闘を「『混乱と停滞』を招く」などと攻撃しました。

山口氏は参議院選挙の争点は何かという問いに、以下のように答えました。

大きく二つあります。一つは、「安定の自公」か、「混乱の民共」かを問う選挙です。

3年前の参院選で自民・公明の与党が過半数を獲得し、衆参の“ねじれ”が解消されました。安定した自公連立政権によって、経済再生、デフレ(物価下落が続く状態)脱却が進み、着実に成果が上がっています。

例えば、有効求人倍率が24年ぶりの高水準となり、正社員の基本給を底上げするベースアップも3年連続で実施されるなど、雇用や賃金が改善されました。結果として、国と地方の税収も、2012年度と比べて16年度は21兆円増えました。

一方、平和安全法制廃止の一点で共闘する民進党と共産党は、そもそも安全保障や消費税などの基本政策も、めざす社会像もまるで違います。まさに“水と油”の関係です。また、自公政権の経済政策を「失敗」とレッテル貼りするだけで、実効性のある経済政策も打ち出せていません。これでは、かつての民主党政権を上回る「混乱と停滞」を招くことは間違いありません。(6月19日付公明新聞より)

.....

野党4党は、第190通常国会において共同で15本の議員立法を提出しました。今回の参議院選挙に向けても、野党4党は市民連合との政策要望書にも調印するなど、多くの共通した政策を掲げています。

野党共闘実現のために奮闘した共産党への期待が高まっており、20日付毎日新聞の世論調査では共産党の支持率が公明党の支持率を上回りました。山口代表をはじめとした公明党のなりふり構わない野党共闘や共産党への攻撃は、こうしたことへの焦りからくるものです。

以上